

一関地方における原木しいたけ販売促進の取組

1 背景

現在一関地方では、生産を再開した原木しいたけ生産者の全て(48名)が他地域からの購入原木でしいたけを生産しています。原木の高騰、乾しいたけの市場価格の低迷等、厳しい状況下で生産意欲が減退しつつある生産者を支援するため、また、かつての一関のブランド力を再興するため、地域経営推進費を活用し、販売促進活動を行いました。

2 試食・販売会の開催

令和2年8月～11月にかけて、一関市や生産者団体が主催する試食・販売会 計5回に参加、資材等の支援をして原木しいたけのPRを行いました。

まず、新型コロナウイルス対策のため、屋内の販売会(1回)では、試食の代わりに、乾しいたけ積み放題大会を実施しました。



乾しいたけ積み放題大会の様子

次に、試食を伴う販売会(4回)は屋外で実施しました。生産者が調理したアツアツの焼きしいたけやしいたけ入りミートローフなど、試食品は大好評でした。

どのイベントも、準備した生しいたけは終了

時間前に完売し、乾しいたけの売れ行きも好調でした。

後日、「試食販売会で食べた原木しいたけを知り合いに贈りたい。」という問い合わせもあり、5回の試食・販売会を通して多くの消費者に原木しいたけの美味しさを知っていただけたと思います。

3 販路拡大の取組

当初は、仙台等の大都市圏への販路拡大をめざした市場調査を計画していましたが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、大都市への移動を避け、県南及び宮城県北での市場開拓に取組を変更し、主に直販を行っている生産者と共に、スーパーや産直等に対して、一関の原木乾しいたけを取り扱っていただくよう働きかけを行いました。

訪問した店舗の方々のお原木しいたけへの関心は思いのほか高く、交渉したその場で、原木乾しいたけの販売コーナーを作ってくださいました。店舗もありました。

結果的には、身近な所での販路拡大(12月末時点で10店舗)に繋がり、まだまだ開拓の余地があることがわかりました。



その場で作っていただいた原木乾しいたけコーナー